

第12期 第4回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日時】令和3年(2021年)12月14日(火)10時00分から11時30分まで

【場所】WEB会議（豊中市立 eMIRAIE 環境交流センター）

【出席委員】渡邊委員 花嶋委員 小島委員 國分委員 西村委員 日名委員 下村委員
高島委員 中澤委員 吉田委員 遠藤委員 榊原委員 米田委員 澤村委員
重長委員

（15名中15名出席：有効に成立） _____ は、WEB参加

【傍聴者】0名

【事務局】糸井、甫立、道端、立谷、溝口、吉村、澤田、永富、渡邊、内田、鈴木、中村、藤田

【配付資料】

- ・第12期第4回豊中市廃棄物減量等推進審議会（WEB会議）議事次第
- ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員名簿
- ・食品ロス削減推進計画（素案）
- ・（補足資料）「食品ロス削減推進計画」の位置づけに関する関連計画

1. 開会

2. 出欠確認

本日の会議は公開とするが、傍聴希望者はいない。委員15名の内、15名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第6条により本日の会議は有効に成立している。

3. 会議録署名委員の指名

議事録署名委員については、高島委員と澤村委員に担当していただく。よろしく願います。

4. 審議

案件 「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定（素案）について

○会長

それでは審議案件に入る。「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定について事務局から説明をお願いします。

○事務局

- ・「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定について 資料に沿って説明

○委員

7ページの食品製造業について、厨芥類が86.8%、食品ロスが85.4%となっている。具体的にどのような事業者を食品製造業として位置づけているのか。またそれほどの量が出ている理由は何か。

○事務局

事業系ごみ排出実態調査の詳細を確認するので、時間をいただきたい。

○会 長

6 ページの図 1-6、図 1-8 において食べ残しや手つかず食品を「食品ロス」と位置づけており、加工原料や調理くずは薄く着色されている部分である。食品製造業という、この加工原料・調理くず等がほとんどかと思うが、図 1-9 では濃く着色された「食品ロス」が大部分を占めており、違和感がある。事務局で調べている間、他の件に関する発言はあるか。

○委 員

食品ロスを防ぐには、まずは捨てないで食べてもらうための周知啓発が必要である。「ごみ分別アプリさんあ〜る」などを活用し、「毎月 10 日、20 日、30 日は冷蔵庫の棚卸しをして食べきりましょう」というような啓発をしてはどうか。また、やむを得ず捨てなければならない場合、豊中市でも生ごみ処理機の助成制度があるが、電動式の高額なので、助成金を増額するなどすれば家庭におけるたい肥化も促進できるのではないか。

○会 長

SNS などを通じて広報し、一人ひとりが自分事として意識しようということである。

○委 員

15 ページの表 2-1 基本目標で、2000 年度の 1 人 1 日当たりの食品ロスの量 166 g から、現況値で 111.9 g となっており、大幅に削減されているが、効果のあった施策はあるか。また、更なる効果を出すために考えている新しい施策があれば教えてほしい。

○事務局

2000 年度は食品リサイクル法が制定された年で、まだ「食品ロス」に対して認識も薄かった。2020 年度までの 20 年間で食品ロス問題が大きくクローズアップされ、現在では食品ロスの削減の推進に関する法律も施行し、市民意識が向上したことが大きな要因の一つではないかと考えている。豊中市の取組みとしては、食材の無駄をなくすためのエコレシピやエコクッキング、家庭で余った食品を提供いただくフードドライブの活動などにより、2020 年度の 111.9 g まで下がったのかと思う。今後の取組みにおいても、具体的施策のなかで挙げさせていただいているように、市民意識を醸成し、行動に移してもらうことが一番重要になってくると考えている。

○会 長

2000 年というのは食品リサイクル法が施行された年か。だとすると 1 人 1 日当たり 166 g や 111 g というのは、一般廃棄物であると思うが、事業系廃棄物を含めた数字か。

○事務局

2000 年度の数字は大阪府の食品ロス量から推計しており、事業系ごみも含んだ数字である。

○会 長

2020 年度も事業系ごみを含んでいるか。

○事務局

一般廃棄物のみとなるが、2020年度についても事業系ごみを含んだ数字である。

○会 長

家庭系一般廃棄物と事業系一般廃棄物は発生源が異なり、食品リサイクル法は事業系の食品廃棄物の減量を目的としたものなので、事業系は大幅に減った一方で家庭系は減っていない、という見方もでき、(市民意識の向上が要因で減ったというのは)少し違うのかもしれないと感じる。

事業系と家庭系を分けて考える必要があるかも含め、何か意見はあるか。

○委 員

市民の目線からすると、家庭系と事業系に分かれて数値目標化されているほうがより分かりやすく、努力した結果がそれぞれ目に見えてモチベーションにつながるのではないか。

○委 員

2000年度から2020年度にかけての削減量が33%と大きいので、必達目標はこれでよいと思うが、高位目標に関してはもう少し高く設定してもよいのではないか、という印象である。家庭系と事業系を分けて考えることで、達成状況も分かりやすくなるのではないか。

○会 長

過去20年間の大きな削減率に比べ、これからの10年間は減り方が少ないのではないかという指摘である。

家庭系と事業系を分けて考え、もう少し家庭系で努力が必要ではないか、など、より詳しくみていく必要があるということだと思う。

○委 員

事業者としても、やはり事業者と消費者・市民それぞれの達成目標を明確にしたうえで、取組みを進めていく必要があると考える。事業系ごみの処理費用が4月からさらに高くなり、事業者は自ずと取り組まなければならない状況にある。一方で、家庭系ごみは我が家を振り返ってもまだまだ意識が希薄だと感じるので、分けて考えていくことが必要である。

ここ数年自然災害が多く、事業者は社員や避難者、帰宅困難者のための食料備蓄を求められているが、賞味期限が切れると何らかの処理をしなければならない。備蓄しろ、という一方で廃棄はするな、という状況なので、全体としてどのような運用をしていくのか、産業振興の部署も含め、行政の内部で連携して進めていっていただきたい。

○会 長

賞味期限が近づいた災害用備蓄食料を安価に、あるいは無償で提供するにもコストがかかるので、公の場で実施することも可能ではないか。

○委員

(賞味期限まで)半年を切ると、社員に配ったり、その場で食べてみる会をすることで、大きな企業は、行政同様、かなりの量を備蓄されているだろう。市民向けの防災食体験イベントなど、捨てずにすむサイクル作りに市をあげて取り組むことができるとよいと思う。

○会長

事業者の取組みと合わせ、公的な支援もあるとよい、という具体的で前向きな意見である。

○委員

2ページの食品ロスを取り巻く環境と課題で、可能であればフードマイレージについて記載いただきたい。フードマイレージは、量と距離をかけ合わせた指標であり、スパゲティや食パンなど、お米以外の主食の割合が高くなっていることや、島国であるなどの状況から、日本はどうしても大きくなる。食品ロスが環境問題にも関わっているということを示したほうがよい。

○会長

計画を市民に公表したり、学校教育にも活用するという事を考えると、少しコラム記事があってもよいかと思う。長距離大量輸送は化石燃料にも直接関わりがあるので、地産地消などのキーワードを入れたコラムなどがあると分かりやすくなるかと思うが、事務局はどう考えるか。

○事務局

フードマイレージなどの記事について、コラム的に追加することは可能かと思うので、検討する。

○委員

贈答品などの余った食品で子どもの放課後の給食などを作っておられるが、持って行く場所が近くなかったり、知らない人も多い。そういう場所を増やして、広報するとよいと思う。

○会長

食品ロスは、例えば買って見たが最初から腐っていた場合のように、心の痛まない食品ロスと、自分が悪かったな、という心の痛む食品ロスがある。後者については削減の余地があるが、仕方のない場合もある。贈答品の場合はどちらに入るか分からないが、すべてを一緒に考えるのはどうかという気がする。そのような観点からも何か発言があればお願いしたい。

また、冒頭に質問のあった事業系食品ロスについて、事務局の回答は準備できたか。

○事務局

先ほど質問があった件(具体的にどのような事業者を食品製造業として位置づけているのか。またそれほどの食品ロスが出ている理由は何か)だが、パンや冷凍食品など、いわゆる食品製造業において、出荷後に回収された売れ残りなどの品物が一般廃棄物の主なものであると推察される。

○事務局

食品製造業として3社調査させていただいたが、手つかずのミカンが多く排出されているところがあり、大きく食品ロスの割合を占めているようだ。

○委員

食品事業者と括ってしまうと幅が広く、食品メーカーと、パンなどをインハウスベーカリーとしてやっているようなところでは出方が異なってくる。一般的に食品製造業というと食品リサイクルも進んでおり、国全体での数字は小さいところなので、少し違和感があった。補足などがあるとよいかもしい。

○委員

第2節の施策内容を見ると、多様な取組みがあり、拡充もされて心強い。「循環利用の推進」としてあげられているたい肥化について、ベランダコンポストと、電動コンポストを両方やってみているが、やはり機械の方が簡単で、ベランダコンポストは技術が必要である。(せっかくだい肥化しても)使いみちがないと結局ごみになる場合もある。豊中市のような集合住宅も多い住宅街では、(匂いなどの問題で)たい肥化が難しいケースもあると考えられるので、3きり運動にも触れられているが、臭いがおさえられるなど、乾燥させるメリットを打ち出すことで重量を減らせるのではないか。

また、豊中市の調査によると、捨てられている食材は野菜が多いようだ。干し野菜に挑戦してみたが、保存がきき、違う食感も楽しめるなど新たな気づきがあったので、エコレシピの発信などの際に「干す」という保存方法についても周知するとよいと思う。電動コンポストは高価で電気代もかかるが、干し網やかごは数千円で買えるので、それに対して補助をすれば、昔ながらの知恵である「干す」ことがもう一度文化として広まるきっかけになるのではないか。他の事例も少なく、豊中市独自の施策としての注目度も高いと思うので、施策の細かい部分になるが、取り入れてみてはどうかと思う。

○会長

色々取り組んでおられて、面白い。そういったものも写真付きで入れたりすると、新しさの点で面白いと思う。

○委員

「とよなか市民環境会議アジェンダ21」でも、来年度はベランダでできるようなたい肥化のモニターをやっていこうかと思っている。失敗した土はごみとして出せないなので、失敗した時はその土を引き取るなど、集合住宅でも取り組みやすい仕組みを考えていけたらと思っている。

○委員

たい肥化の講習会に出席したことがあり、取り組んでみたいと考えているところである。電動コンポストは高額だが、助成金が3,000円しか出ないということであった。今後、増額の予定はあるか。また、生ごみを分別し、たい肥化などをすると可燃ごみが減ると思うが、そのようなシステムを作ることはやはり難しいか。

○委員

豊中市は、現在はたい肥化の助成を行っておらず、「花と緑のネットワークとよなか」が「とよっぴー基金」の一部を充てて助成制度を運用している。集合住宅に馴染む電動コンポストの費用を考えると予算的に難しい面もあるが、たい肥化容器の購入費補助や、資材の提供などを行い、市民が取り組みやすい環境づくりに取り組んでいる。

○委員

話の比重がごみ処理のほうに移っているが、食品ロス削減は、まずその発生を抑制しようというところに重きをおくべきものである。市として発生した後のことも考えることは悪いことではないが、食べものには多くの命やエネルギーがかかっている、簡単に捨ててはいけないというのがそもそもの論点であり、少し話が後ろの方にずれ過ぎたような気がするがどうか。

○会長

その通りである。

○委員

賞味期限や消費期限は年月日の記載だけなので、より理解しやすいよう、「何月何日まではおいしく食べられます・食べることができます」などと子どもにも読めるような大きめの字や平仮名で表してはどうか。

○委員

岡山ではフードドライブ活動が積極的に展開されているところがあり、学生に乾麺を配布したりしている。豊中市にもいくつか大学があるが、そのような取組みはあるか。

○事務局

豊中市のフードドライブは、地域イベントで実施しているのと、事業者ではダイエー、光洋が月のうちの一週間、コープこうべでは常時実施している。地域イベントでは、地元の中学校在興味を持ってくれた。今後も子どもや学生も多く訪れる地域イベントにおいて、フードドライブや食品ロスの問題を周知していきたい。

○委員

我が家が出る食品ロスは、食べ残し以外はほとんど自分の責任であると感じている。普及啓発活動も女性をターゲットにした食品ロス関連イベントや活動をしていただくとよいと思うし、各々が持っているアイデアを情報交換できる場所やイベント、仕組みなどがあるとよいのではないかと。

○会長

(女性をターゲットというのは)現実的だが、時代の流れを考えると行政としては難しい部分もあるのではないかと。

ところで、事務局に聞くが、事業系のものと家庭系と分けて考えてはどうか、示されているデータにも偏りがあるのではないかと、などいくつか大きな指摘があったと思うが、これから大幅に修正するのか。

○事務局

基本目標のところ、家庭系と事業系に分けた方がよいという指摘について、家庭系ではこのくらい減らす、というように表記を変更する。

今後のスケジュールだが、今回ご審議いただいた内容を反映出来るところは反映し、庁内照会をかけ、計画の修正案を会長に確認いただいてからパブリックコメントで市民からの意見をいただき、2月の審議会で最終案として提示したいと考えている。

○会 長

最終案はパブリックコメントの後か。

○事務局

パブリックコメントを経た後の最終案として、次回審議会でお示しする。

○会 長

今日の結果と庁内での調整を行なったうえで、次回審議会の前にパブリックコメントを実施し、その結果を反映した最終案を審議会で提示するというのでよいか。

○事務局

そうである。

○会 長

強調したい修正点があればご発言をお願いします。

○委 員

ごみの減量で成功した事例を発信する場がないように思う。豊中市で、インスタグラムのような、成功事例を市民が投稿できるような場があるとよいのではないか。

トヨタ自動車の公式サイトで、トヨタの車と利用者の写真を投稿する「みんなのトヨタグラム」というのがある。写真と成功事例と一緒に投稿できるようなものがあれば、市民により食品ロス削減に向けた意識づけが出来るのではないか。そのようなサイトの開設も検討いただければと思う。

○会 長

完全オープンにしてしまうと、投稿ジャックがあるので気を付けないといけないが、管理をしっかりした上で進めるのが安全かと思う。

その他何かあるか。なければ閉会とする。

5. 閉会